

百脈根

〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥

山城國卅二種略○中 地榆黃耆各十斤、伊勢國五十種略○中 黃耆十一斤略○下

〔大和本草九〕百脈根 ミヤコクサ、細草也、四月黃花ヲ開ク、花形豌豆花ニ似タリ、色ヨシ、葉小二

シテ三ニ分ル、仙臺ハギノ如ニシテ小也、京都大佛ノ前耳塚ノ邊ニ多シ、本草山草上ニ出タリ、實ハ莢アリテ兩々相生ス、

〔重修本草綱目啓蒙七〕百脈根

ミヤコグサ ○ミヤコバナ ○コガ子グサ ○加州 ○コガ子バナ ○コガ子メヌキ ○キレンゲ ○エボシグサ ○江戸 ○キツ子ノエンドウ ○江州

原野極メテ多シ、一根叢生、莖長七八寸、皆地ニ就テ生ジ、荷花レンゲ紫草ノ狀ノ如シ、五葉ゴトニ一處ニ生ジ、迎春花フタバ葉ノ形ノ如ニシテ薄小ナリ、色ハ深綠、三四月莖端ニ七八花攢簇ス、形モ荷花紫草花ノ如クニシテ大ナリ、金黃色又褐色ヲ雜ユル者アリ、花後細莢ヲ結ブ、長サ寸許生ハ青ク熟ハ褐色ナリ、

〔廣益地錦抄六〕百脈根

葉は萩のかたち、極めてちいさくまげく付、えだ多く地にしく、花形さ、げの花のごとく、うこん色おほく付、四五月にさく、花も葉もあひらしくながめたへず、實はさ、げのごとくにして、一所に二ツ宛付、近邊所々芝の間道のかたはらに多く生ル、目黒邊、淺茅、王子邊芝野の中、又は道のかたはらに多く生、花ざかりの節は、行人あしをとゞむるほどながめあり、宿根ハ生ル、又種を蒔てもよくまげる、草花の名烏帽子草共、みやこ草ともいふ、

〔新撰字鏡草〕苦參久良々

〔本草和名八〕苦參、一名水槐、一名苦蕒仁識、一名地槐、一名菟槐、一名驕槐陶景注云、葉似槐、故名、一名白莖、一

名虎麻、一名岑莖、一名祿白、一名陵郎已上一名祿光、一名熟女、一名阮、一名處麻、一名委提莖、一名顛

槐、一名使已上七名、和名久良々、一名末比利久佐、

苦參